

ノルトライン・ヴェストファーレン州にあるミュンスターランド地方の中心にある小さな町、テルクテ市より「脱原発をめざす首長会議」にご挨拶申し上げます！

私は過去 30 年間に渡り、緑の党の一員として地方政治に積極的に関わってきました。ここ 3 年間は自分の故郷で市長を努めております。私たちは、早い段階で原子力エネルギーの使用阻止および核兵器開発競争との闘いに関わり始めました。ドイツの原子力エネルギー廃止により、今日、私たちは再生可能エネルギーに基づいた環境に優しく、危険性の低いエネルギー供給を増大させるという希な機会を持つ状況にあります。従って、地方レベルでは、エネルギーシフトの目標を実現させるように取り組んでいます。そして、市議会は数多くある個々の対策を構成する総合的「気候保護コンセプト」を投票で通過させました。更に、テルクテ市は必要とされる対策を理解し、支援する気候保護のマネージャーを雇用しました。

私の意見としては、原子力エネルギーの使用は全く先が見えません。技術面から見ても、原子力使用のコントロールは不可能です。原発は国家の補助金無しでは成立せず、その仕組みに対する懸念も生態学的に壊滅的な影響を及ぼす最終処分に対する疑問もあります！そのため、ドイツの環境団体および政治は、2011 年 3 月に福島で起こった自然災害後の日本での進展を注視しています。原子力エネルギー廃止の推進を目指す日本の市民の皆さんは私たちの支援を必要としています。ですから、私たちはそうした市民の側についているのです。

私は、「脱原発をめざす首長会議」ネットワークの年次総会が原発立地自治体である東海村で開催されることは、前向きな政治的シグナルであると評価しています。原子力エネルギーの使用停止に対する私たちの共同の努力が実ることを祈っております！

テルクテ市よりご成功をお祈り申し上げます。

ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州
テルクテ市長
ヴォルフガング・パイパー